

世界初 クローン技術でヒトES細胞

5月16日 5時16分



クローン技術を使って、体のさまざまな臓器や組織になるとされるヒトのES細胞を作り出すことに世界で初めて成功したとアメリカの研究チームが発表し、再生医療の可能性を広げる成果として注目されています。

この発表は、アメリカのオレゴン健康科学大学の研究チームが行いました。研究チームは、9人の女性から合わせて122個の受精していない卵子の提供を受け、それぞれの核を取り除いたあと、別のヒトの皮膚の細胞から取り出した核を入れて培養しました。

その結果、体のさまざまな組織や臓器になるとされるES細胞が6個出来、さらに、心筋の細胞に成長させることにも成功しました。

卵子に別の細胞の核を入れて同じ遺伝情報を持つ細胞を作り出すクローン技術を使ったES細胞の研究は、再生医療の切り札として10年近く前まで大きな期待を集めていました。

しかし、2007年に京都大学の山中伸弥教授が、卵子を使わず、ヒトの皮膚の細胞だけを使ってES細胞と同じ能力を持った「iPS細胞」を作り出したことで、クローン技術を使ったES細胞の研究は以前ほど盛んではなくなっています。

研究チームによりますと、クローン技術でヒトのES細胞を作り出したのは世界で初めてで、再生医療の可能性を広げる成果として注目されています。